



むと東川に下降することになるので、少し戻ってから、博士沢左俣の下降に移るべく、右斜面をヤブこぎして尾根に出る。(記・3)

[タイム] つむじ倉橋(8:10)→遡行終了(10:15)  
→尾根(10:30)

### 博士沢左俣

1994年8月27日

L系

南沢から尾根を越えて、博士沢左俣の下降点に移動する。ヤブこぎは、さほどでなかった。沢に降り立つといったんは水流が出てきたが、いつのまにか沢は消え、背丈ほどのササがかぶさり、ヤブこぎを強いられるようになった。

再度水流が出てくる。まわりはブナやミズナラの樹林帯で歩きやすく、快調に下降ゆく。や

がてこの沢で唯一の滝4m。左岸をクライミングダウンで降りる。

高度を下げてゆくと伐採地に出、沢は平坦となる。

沢の中はブッシュがひどく、歩けない。しかたなく右岸の伐採地を歩き、登山口からのびている林道に出た。あとは車を置いてきたつむじ倉橋まで、林道を歩く。

(記・4)

[タイム] 尾根(10:35)→源頭(10:40)→不動沢林道(11:30)

### 博士沢右俣

1994年7月16日

L系

博士山登山口駐車場の脇の沢である博士沢右俣に入

